

我々は、米・英の煽ったシリア危機に騒いでいるのか？

トランプの空爆はメンツ立てか？

【訳者注】この記事の他にも、同じ Global Research に、「トランプのシリアに対する戦争拡大は、お預けか？・・・」という記事があり、トランプは確かに、あまりやる気はなく、面子を立てただけであり、米軍統合参謀本部もその意向のようだから、ひとまず安心できるかと思われる。しかし、それは良識や外交精神が働いたわけではなく、彼らは徹底的にやるはずで、戦争は終わらないという、この論文の結論は重要である。これは「彼らは最終決着を見るまで、途中で中止したり、方向転換をしたりすることはない」という、我々の（マクベスになぞらえた）仮説に一致する。

それにしても、今朝の読売新聞のように、「シリア、サリンガスを使用か？」などと書けば、シリアの犯行は決まっており、その内容を問うているように取れる。大新聞の見出しは教科書の働きをする。我々の子供が一生涯、シリアは大統領が自国民をガスで殺す恐ろしい国だと信じて過ごしたら、どうするつもりか？ 犯罪国家（群）の肩をもつ国家は、犯罪国であるだけでなく、やがて愚かな国と評価されるだろう。これを忘れてはならない。

Dr. Paul Craig Roberts

April 14, 2018, Global Research



アメリカが攻撃で使ったミサイルの数が、ごくわずかであり、その大部分はシリア空軍にインターセプトされ、破壊されたことから考えて、米軍は、狂気のジョン・ボルトンに勝ち、ロシアの反撃を誘発する攻撃は、注意深く避けたように見える。特に重要なシリアのサイトは目標とされず、いなるロシア人も危険にさらされることは

なかった。（ソース：<https://www.fort-russ.com/2018/04/in-depth-syria-stuns-world-thwarts-us-attack/>）

駐ロシア米大使は、米軍の攻撃は、大国同士の衝突を避けるため、ロシア側と調整されていたと話した。「ロシア・インサイダー」は、この演習はトランプにとって、面子を立てるものだったと結論している。

<https://www.rt.com/news/424132-us-russia-syria-strikes/>

<https://www.rt.com/news/424132-us-russia-syria-strikes/>

その主たる効果は、トランプが、国連憲章と国際法を無視し、侵略行為を犯したことによって、彼自身とアメリカの信用を、さらに傷つけたことだと思われる。これはナチスの文官や軍人が処刑された戦争犯罪である。ロシア大統領プーチンは、ワシントンによる気まぐれで不法な武力行使は、「国際関係の組織全体に破壊的な影響を与えるもの」だと言い、国連安保理の緊急会議を要請した。中国もまた、不法なアメリカの攻撃を非難した。

<https://www.fort-russ.com/2018/04/china-says-us-led-attacks-against-syria-are-illegal-and-against-international-law/>

恐れられた米露の衝突は、どのようにして避けられたのか？ 私が知り得たところから判断すると、米軍統合参謀本部は、ロシアとの衝突のリスクを冒したくなかった。その理由は、参謀たちがより道徳的で、死傷者が出ることに、より気を使ったとか、ウソを根拠にして戦争を始めたくなかった、ということではなかった。彼らの反対は、米海軍軍艦が、ロシアの新しい兵器システムから身を護るすべを持たない、という事実に基づいていた。ロシアの反撃を誘発するような攻撃をすれば、米海軍船団を沈め、アメリカの軍事的威信を失わせる、屈辱的敗北を喫することになったであろう。

ポルトンの立場は、プーチンは、これまであらゆる場合にそうだったように、何もしない子猫のような男だということである。彼の立場は、ロシア人たちはアメリカの軍事力を恐れているから、ロシア軍やシリア軍へのアメリカのどんな攻撃にも、彼らは反撃しないだろうということである。ロシア人どもは、いつも通りの行動をするだろうと、ポルトンは言っている。彼らは、犯罪を国連に訴えて泣きつくだろう、そして西側メディアは、いつも通りに、それを無視するだろう。

アメリカの戦争省長官マティスが、統合参謀団の意見を代表していた。もしロシアたちが、とマティスは問うた、我々の攻撃をもう我慢しきれなくなって、彼らのもっている能力を使って米軍船団を沈めたとしたらどうする？ トランプは、国家安全保障アドバイザーによって仕込まれた敗北を、受け入れる用意はあるだろうか？ トランプは、考えられる衝突の拡大の用意をしているのだろうか？

参謀たちはむしろ、仕組まれた“シリア危機”を利用して、もっとカネを稼ぎたかった——彼らの退職計画を台無しにする可能性のある、戦争などをやるよりも。統合参謀団は、議会にこう言いたいところだろう——

「我々は、シリアの化学兵器使用をめぐって、危ないロシアとの戦争などすることはできない。なぜなら我々は兵器で負けているからだ。我々はもっとカネが欲しいのだ。」

アメリカのより古い世代は覚えておられるだろう——アメリカの防衛費を引き上げるのに使われた、ニクソン/ケネディの、幻想の“ミサイル・ギャップ”のことを。

誰にせよ、常識が勝利して、紛争が解決したというような結論を出すとしたら、それは間違っている。常に勝利してきたのは、統合参謀本部がもっている敗北への恐怖である。

ワシントンが作り出す次の危機は、ロシアの兵器に対して、より分の悪いものになるだろう。

ボルトン、ネオコンたち、それに彼らが代表するイスラエル関係者は、マティスや、反対する將軍たちに働きかけるだろう。マティスの信用を失わせ、トランプ不信を煽るように仕組まれた、リーク記事が、売春新聞に現れるだろう。ネオコンサーバティブたちは、軍人たちを、統合参謀本部の立場を攻撃するネオコンサーバティブに、従わせようとするだろう。

シリアは、どんな化学兵器の使用に関係していない。化学兵器禁止機構の責任者 Ahmet Uzumcu は、化学兵器はすでにシリアから完全に撤去された、と報告している。

<https://www.military.com/daily-news/2014/06/24/last-of-syrias-chemical-weapons-removed.html>

「国内の武力紛争を経験したある国家から、大量破壊兵器の類のすべてが撤去されたことはなかったが、この度それは、非常に厳密に、厳しい時間枠の中で達成された。」

シリアは独裁国家ではなく、民主主義を建設中でもない。それは化学兵器の 70 人の犠牲者と言われるものにも関係がない。過去 17 年間に 7 か国で、何百万というムスリムを殺し、傷害を負わせ、孤児をつくり、住処を奪った、ワシントンとそのヨーロッパ従僕が、70 人のムスリムの死にそれほど驚いて、ロシアとの危険な戦争を始める気になるなどと、よほどの馬鹿でも信じられるものではない。

シリアとイランが一つの問題であるのは、彼らが、レバノンの民兵団ヒズボラに、資金と武器を支給しているからである。このシリアとイランからの援助は、南レバノンをイスラエル

が占領し併合するのを、ヒズボラが防いでくれる力になっている。レバノンの水資源をイスラエルは欲しがっている。

自慢のイスラエル軍は、2度にわたって、ヒズボラによりレバノンから追い出された。イスラエルの軍事的名声は、単なる民兵によって、3度も負かされる危険には耐えられない。そこでイスラエルは、アメリカの外交政策に対する支配力と、ネオコンとの盤石の同盟関係を利用して、アメリカがイラクやリビアに対してやったように、アメリカ軍に、シリアとイランの不安定化を委ねようとしている。

そのために、アメリカの世界制覇は、キチガイじみた、ネオコンサーバティブのイデオロギーをもっている。ロシアと中国の利益は、アメリカの世界制覇の邪魔をしている。したがってこの2国は、“脅威”と定義づけられている。ロシアと中国が脅威であるのは、彼らがアメリカを攻撃する意図をもっているからではない。彼らがそんな様子を見せたことは全くない。彼らが（アメリカにとって）脅威なのは、各国の主権を踏みにじる、アメリカの一方的政策に、反対するからである。言い換えると、はっきり言ってアメリカは、独立した外交、あるいは経済的政策をもつどんな国も許せないのである。

ロシアと中国が独立した政策を持っていることが、彼らが“脅威”である理由である。

外交精神が勝利して、ワシントンに常識が戻ってきたと結論するのは、間違いであろう。それほど真理から程遠い話はない。問題は解決していない。戦争がかなたに見えている。